社会資本総合整備計画　　事後評価書

計画の名称	道路ネットワークを充実させる幹線整備や生活に密着したきめ細やかな道づくり
計画の期間	令和０２年度　～　令和０６年度　(5年間)　　重点配分対象の該当
交付対象	今治市
計画の目標	各地域を結び地域の連携を図る道路ネットワークを形成していく幹線型道路を充実させるとともに、地域の生活環境を向上させる地域密着型道路を着実に整備していく。

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	2,532	A	2,532	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2	R4	R6
1	幹線道路等の整備延長を約2500m増加させる。			
	幹線道路等の整備延長の増加 幹線道路等の整備延長（事業費換算延長）　＝　全体計画延長　×　（5ヶ年事業費　／　全体事業費）	0m	1500m	2500m
2	バリアフリー法に基づく特定道路の整備率を90%（R2当初）から100%（R6末）に増加させる。			
	特定道路の整備率の増加 特定道路の整備率 = 特定道路整備済延長　／　特定道路総延長	90%	100%	100%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	○	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
今治市定住自立圏共生ビジョン：A01-001～A01-008												

案件番号：

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R02	R03	R04	R05	R06	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	鴨部線　玉川町	現道拡幅L=1.4㎞	今治市	■	■	■	■		300		－
	A01-002	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	高地延喜線　阿方工区	バイパスL=0.8㎞	今治市	■	■	■	■	■	700		－
	A01-003	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	今治駅高橋線　小泉工区	バイパスL=0.6㎞	今治市	■	■	■	■	■	480		－
	A01-004	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	別名矢田線	バイパスL=1.5㎞	今治市	■	■	■	■	■	160		－
	A01-005	街路	一般	今治市	直接	今治市	S街路	改築	今治駅西高橋線　片山工区	現道拡幅L=0.4㎞	今治市	■	■	■			634		－
	A01-006	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	高地山方線	バイパスL=0.5㎞	今治市	■	■	■	■	■	75		－

案件番号：

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R02	R03	R04	R05	R06	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-007	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	大浜糸山線　第1工区	現道拡幅L=0.6㎞	今治市	■	■	■	■	■	113		－
	A01-008	道路	一般	今治市	直接	今治市	市町村道	改築	今治駅西側線ほか	バリアフリー整備L=1.3㎞	今治市	■	■	■	■	■	70		－
											小計						2,532		
											合計						2,532		

案件番号：

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
今治市社会資本総合整備計画等評価委員会	令和8年度
	公表の方法
	市の公式ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	幹線道路等の整備により、道路ネットワークの強化及び交通の円滑化が図られた。整備延長は968mとなり目標値には至らなかったものの、バリアフリー法に基づく特定道路の整備率は100%を達成し、安全で利用しやすい道路環境の整備が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

令和7年度からは別整備計画に移行し、引き続き幹線道路等の整備を推進する。

案件番号：

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	整備延長		
	最　終 目標値	2500m	令和５年度から一部事業を他の補助事業へ移行したことにより、本計画の対象事業費が減少したため、目標値に達しなかった。
	最　終 実績値	968m	
2	整備率		
	最　終 目標値	100%	
	最　終 実績値	100%	

案件番号：